

7月14日（金）草津市教育研究所のやまびこ教室を訪問しました！

## 対談テーマ

### 不登校児童生徒への支援について

グループでの体験活動や ICT 教材を使った学習を通して、不登校児童生徒等の生活リズムを整え、学校復帰や社会的自立を目指す「やまびこ教室」の実践を見聞し、これまでの取組の成果と今後の支援について対談しました。

#### 訪問した教育委員

土井 真一 委員 窪田 知子 委員 野村 早苗 委員  
石井 太 委員 塚本 晃弘 委員



## 施設見学



## 意見交換より

委員：就学前の子どもが小学校に入学し、不登校にならないためにどのような連携を取られていますか。

研究所：入学前に小学校を見学して、不安な点があれば質問していただき、解消してもらえようとしています。また幼小中接続キープログラムとして中学校区すべての園に小学校のフリーの教員が見学する、園の先生が小学校の授業を参観するなどして情報共有し、受け入れ準備を行っています。

委員：フリースクールへの助成について市の認定はどのように決められていますか。

研究所：児童生徒が通うフリースクールに訪問し、社会的自立を目指しているか、有料か、保護者や学校と連携をとっているかなどお話を伺いながら助成の有無を決定しています。

学校に行きにくい子どもたちの居場所を確保するために、青地教室に加え、令和5年度5月に上笠教室を開室されました。不登校の未然防止や早期発見の一つとしてスーパーバイザーによるモニタリングを実施し、先生方を支援されたり、保護者会を実施したりするなど、不登校児童生徒の社会的自立に向けた様々な取組のお話を聞かせていただきました。

当日は、次世代文化芸術体験として陶芸教室を参観させていただきました。

委員：やまびこに通級している子どもは、教室をどのように活用していますか。

研究所：学校とやまびこ教室両方に通う子どもいれば、学校には行かず、やまびこのみ利用する子どももいます。今日のような体験の日だけ参加する子どももいます。やまびこの休みとしている火曜日は、登校にチャレンジする日に設定しています。

委員：どのような経過を経て学校に復帰されているか、何か共通していることはありますか。

研究所：安心できる居場所があることが大事。学校に行けなくても社会で自立できる力をどこかでつけることができれば良いと考えています。進路を自分で選択したお子さんの多くは、現在も通学できています。